

山口県における道路の課題

課題 地域連携の強化

- 分散型の都市構造。
- 広域ネットワーク整備の不足。

中規模の都市が点在しており、分散型の都市構造を形成している。山陰側と山陽側を結ぶネットワークが不足している。

課題 山陽側に集中する交通への対応

- 渋滞および事故の集中発生。
- 自動車交通の集中による環境の悪化。
- 利用者の多い旅客施設が集中。

課題 サービス水準の確保と安全性の向上

- 低いアクセス性。
- 災害に対する脆弱性。
- 公共交通サービスの不足。

課題 住民意向の反映と透明性の向上

- 高い山口県の道路利用者満足度。
- さらなる透明性の確保が求められている。

山陽側の都市部では、事故・渋滞が集中的に発生。都市の交通渋滞はCO₂の発生要因となっている。

- 高速IC30分圏外エリア
- 農林統計上の中山間地域
- 主要渋滞ポイントが集中するエリア
- 広域生活圏の中心都市
- 3次医療施設



山陰側や島しょ部では、高速ICから30分以上、また3次医療施設まで1時間以上を要する地域が多い。

中山間地域では、未改良区間や異常気象時通行規制区間が多く、災害時の交通確保に不安を抱える。

成果志向の道路行政マネジメント

より透明性の高い、効果的かつ効率的な道路行政運営へ転換していくために、3つの柱と4つの戦略を掲げ、国民の視点から見た「成果志向の道路行政マネジメント」の実現に取り組んでいます。

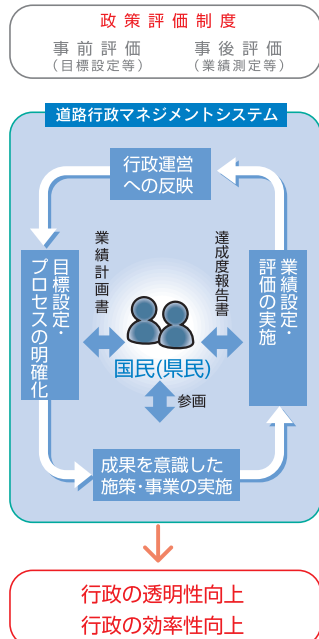
- *1 アウトカム指標
道路施策・事業を実施することによって発生する効果・成果(アウトカム)を示す指標。
- *2 アカウンタビリティ
道路行政における「透明性確保」のための説明責任、説明義務。

マネジメントにおける3つの柱(主旨)

- 1 年度毎のマネジメントサイクルの確立**
事前に数値目標を立て、事後の達成度評価による結果を、以後の行政運営に反映するしくみを確立します。
- 2 わかりやすさと実現性の両立**
道路利用者にとってのわかりやすさと、実際の行政運営に反映可能な実現性を両立します。
- 3 国民と行政とのパートナーシップの確立**
数値目標やその達成度を公開し、道路マネジメントへの国民の参画を図ることでパートナーシップを確立します。

実践のための4つの戦略

- 1 目標と指標の設定**
政策目標ごとにアウトカム指標を設定します。
- 2 効率的なデータ収集**
指標による政策評価に必要な交通量などのデータ収集を毎年効率的に行うシステムを構築します。
- 3 毎年度の業績計画の策定及び達成度の把握**
毎年度、数値目標を設定し、達成度を評価します。
- 4 アカウンタビリティの推進**
毎年度、数値目標や、その達成度等を「業績計画書」及び「達成度報告書」として公表します。

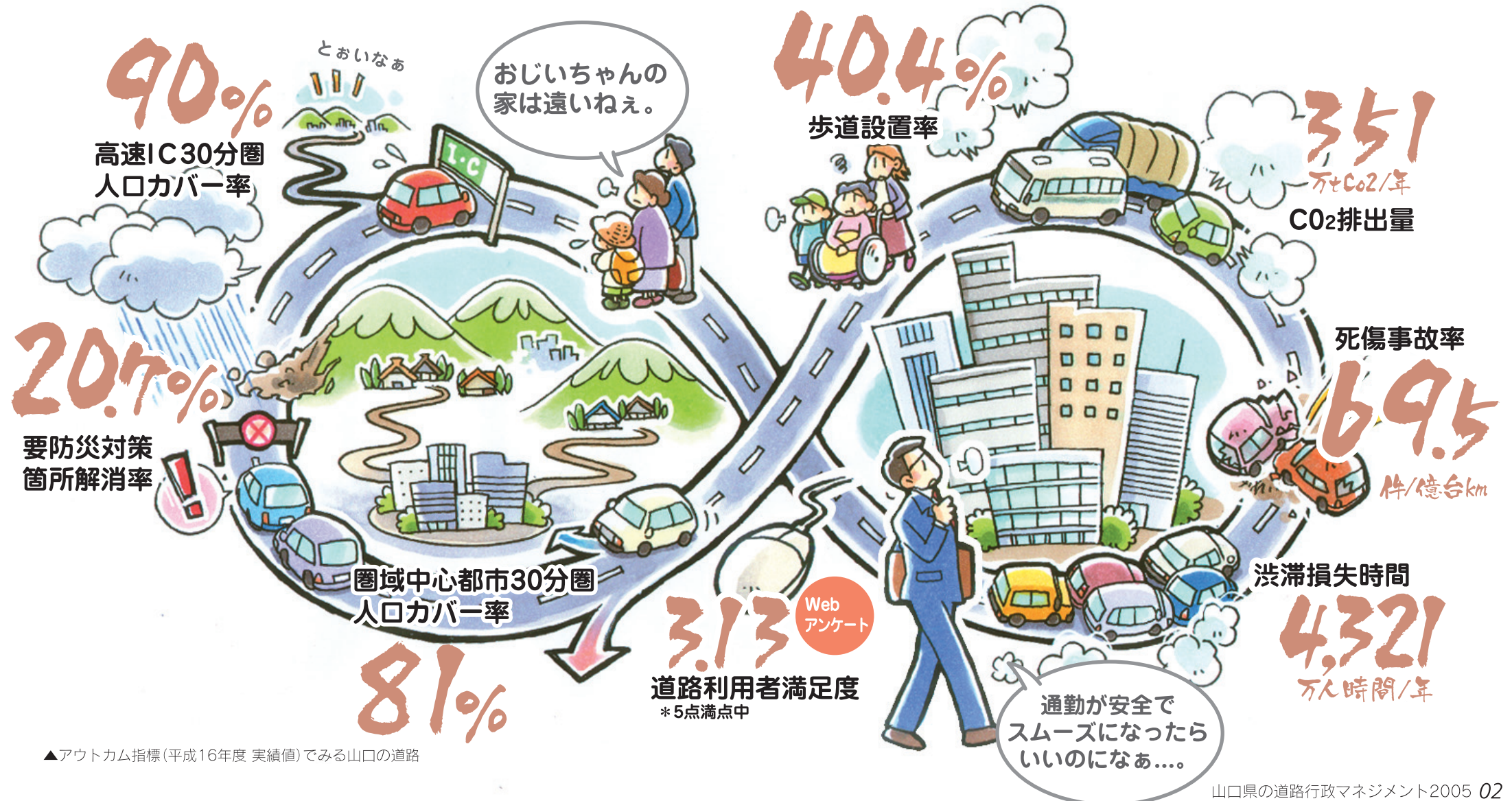


▲全国における道路行政マネジメント

道路に関する諸問題を数値で表すことで、道路の現状と改善の目標を明らかにします。

アウトカム指標とは

例えば山口県における渋滞の課題を「渋滞損失時間」というアウトカム指標で表すと、年間4,321万人時間(一人当たり29時間)が失われていることになります。『山口県の業績計画書』においては、平成19年までに、これを年間4,104万人時間(一人当たり27時間)に削減することを目標としています。このように、本計画書では従来わかりにくかった事業目標を、アウトカム指標として数値化して示すことで、よりわかりやすいものとする工夫をしています。



▲アウトカム指標(平成16年度実績値)でみる山口の道路